

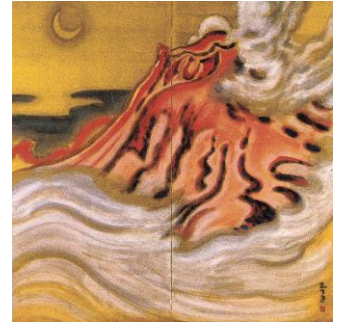


Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30
- ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
- ◆会 長 / 渡辺 頼雄
- ◆幹 事 / 依田 晋一
- ◆TEL 0267-23625 渡辺 文夫 X 0267-23628
- ◆副 幹 事 / 依田 晋一
- ◆広報・情報委員長 / 清水 泰男

NO. 1244 平成26年9月2日



◆点鐘	渡辺 文夫 会長
◆SAA	神津 恭通 委員
◆ソング	君が代 誕生日の歌

◆誕生祝

神津恭通会員 矢島英夫会員

◆結婚祝

矢島英夫会員・泰子夫人
前田博志会員・寿美子夫人

【会長挨拶】 渡辺 文夫 会長

会員の皆様こんにちは。お盆休み以後の気候の変動が激しく体調維持には大変な注意が必要とと思います。お気お付けください。

ガバナー補佐長岡秀秋様の事前訪問につづき、ガバナー中川博司様の公式訪問例会も無事に終了し、お互いに良い勉強させて頂いたと推察致します。

本日は小諸八幡宮と八朔相撲についてのお話を致します。

八幡宮のお祭礼は9月7日(日)です。祭典の一大イベントが子供主役の「八朔相撲」です。以前は大相撲のお相撲さんが数人来て居りましたが大分前から来なくなりました。310年以上の歴史のある祭礼行事で1996年(平成8年3月15日)小諸市指定重要無形文化財に指定されております。1872年(明治5年)太陽歴の採用で暦が改定されて9月1日が祭礼の日となったが、氏子の生活に合わせて9月の第一日曜日となったとのことです。八幡宮の地続きにある熊野神社は与良と荒町の産土神(うぶすながみ)土地の守り神、氏神の杜で古文書によると創建は833年程前こより600M程東

の古熊野堂と云う地にあったが1703年(元禄16年)に八幡宮の隣地が氏子から寄付されて奉還したとのことです。

八朔相撲の八朔は(旧歴の八月一日)のことで、その祭りの日に行われていた奉納相撲を八朔相撲と云います。

1691年(元禄4年)に小諸城主石川能登守乗紀の命で始まり、人心の掌握と住民の安泰を図って行われてきた神事相撲であるが現在は伝統の継承と子供の成長祈願の意味が大きいとのことです。今日まで310年以上継承されている旧荒町地区の伝統行事です。

以上会長挨拶です。ありがとうございました。

【幹事報告】 小島 勝 副幹事

1. ロータリー国際大会について

日時 2015年6月6日(土)~9日(火)

場所 サンパウロ(ブラジル)

2. ロータリー文庫運営委員会より「資料目録」

3. 例会変更

佐久コスモスRC 9月8日(月) 定刻受付あり

9月15日(月) 定刻受付なし

千曲川RC 9月17日(水) 定刻受付あり

4. クラブ計画書 軽井沢RC

5. 日本ユネスコ協会連盟より2013年度活動レポート

6. 週報 上田東RC

・例会終了後臨時理事会

【本日の配布物】

週報 1243号、ガバナー月信 3号、ガバナー月信 3号正誤表

◆ラッキー賞

NO. 12 清水 泰男 君

◆ニコBOX 黒澤 明男 委員

神津 恭通君	誕生祝、有難うございました。
掛川興太郎君	職業奉仕の為、早退いたします。
橋詰 希望君	両川さん、ようこそお帰りなさい。
両川 栄君	色々、有難うございました
矢島 英夫君	9月には私の人生のスタートです。誕生祝、結婚祝有難うございました。
渡辺 文夫君	両川さん、ご出席有難うございます。元気な顔見てホッとしました。
前田 博志君	両川さん、お帰りなさい。
清水 泰男君	ラッキー賞、有難うございました。両川さん、おめでとうございます。

黒澤 明男君	カミサンの実家(森山)が登録有形文化財の指定を受けました。小諸市では、はりこし亭・ほんまち町屋館・萬屋骨董店・大塚魚店に続く5件目の登録です。有形文化財のうち、重要なものを「重要文化財」に指定し、さらに世界文化の見地から特に価値の高いものを「国宝」にして保護を図っています。
--------	---

◆【出席報告】 掛川 興太郎 委員

	会員数	出席	M・U	欠席	出席率
本日 9月2日	22	19	事前1名	3	85.00%
前々回 8月19日	22	20	事後0名	2	90.00%

【本日のプログラム】 「新世代月間によせて」 奉仕プロジェクト委員会 矢島 栄一委員長



今月は新世代活動月間ということで、新世代活動の内容について簡単に紹介したいと思います。



● 9月 新世代のための月間 (New Generations Month)

1996-97年度から、従来の「青少年活動月間」の名称が変わり、「新世代のための月間」となりました。年齢30歳までの若い人、すべてを含む新世代の育成を支援するロータリー活動に、焦点を当てる月間です。

クラブと地区は、新世代の基本的ニーズ、すなわち健康、人間の価値、教育、自己開発を支援するプロジェクトに着手するように要請されています。

ここでちょっと矛盾することがあります。というのは2013年のRI規定審議会で5大奉仕の中の新世代奉仕を青少年奉仕に変更することにしました。

これは、欧米では新世代というと新生児から小学生も含まれてしまうようで、ロータリーで対象としている12歳以上とそぐわないとの理由だそうです。

本来であれば月間の呼び方も変更してもよさそうなものですが、こちらは当面は変更されないようです。

ローターアクト・インターアクト・RYLA

- ロータリーが力を入れている取り組みの一つに、青少年や人材の育成があります。
- 「ローターアクト」「インターアクト」「RYLA」（ロータリー青少年指導者養成プログラム、「ライラ」と発音）はそれぞれ、若い人を対象としたロータリーのプログラムです。
- ここでは、若い人たちがリーダーシップの力を身につけ、ボランティア活動や地元・海外の若者との交流を通じて、国際理解と友情を育んでいます。

インターアクト

- インターアクトとは、ローターアクトよりも若い12～18歳の若者を対象としたプログラムで、高校または地元地域をベースとするクラブがあります。
- インターアクトクラブは、ボランティア活動と国際理解を中心に活動し、少なくとも年に2つ（1つは地元での奉仕活動、もう1つは国際理解を育む活動）のプロジェクトを実施しています。
- ローターアクトクラブと同様、ロータリークラブがスポンサーとなりますが、インターアクトクラブの運営と活動は、インターアクト会員（インターアクター）が自分たちで行っています。

青少年交換とは

- 異文化に接することは、国際理解と平和を推進する最も効果的な方法です。
- ロータリーの青少年交換プログラムは、海外の人々と交流し、異文化を体験することによって、生涯にわたる国際理解の種を播く機会を多くの青少年に提供しています。
- このプログラムは、参加する青少年と、青少年を受け入れるロータリアンや指導者のみならず、地域社会全体にも非常に多くの恩恵をもたらします。青少年交換を通じて、学生は他国での生活のあらゆる面をじかに学びます。世界に対する視野が広がるとともに、学生の自己に対する理解も深まっていきます。
- 他国の教育制度を体験することによって、学生は学業面でも人間的にも成長を遂げます。さらに、異文化出身の学生との親密な交流を通じて、受入クラブ、ホストファミリー、そして地域社会全体も豊かになります。

青少年交換の種類

ロータリー青少年交換には、3種類の交換プログラムがあります。

- **長期交換:** 通常、1年間のプログラムで、交換学生は受入国で2つ以上のホストファミリーと生活を共にし、学校に通学することが義務づけられています。長期交換は、学年度の直前と直後の休暇期間の一部またはすべてを含めて、延長することができます。
- **短期交換:** このプログラムは、数日間から数週間のものまでさまざまです。学校が休みの期間中にしばしば行われ、通常、学業は含まれません。短期交換は、受入国の1つの家庭にホームステイをするのが一般的ですが、多くの国々の学生が集まる国際青少年キャンプまたはツアーとして実施することもできます。
- **新世代交換:** これは、18歳から25歳までの若者を対象に、3～6週間の滞在を行う短期の特別交換プログラムです。このプログラムには、職業訓練的な内容が含まれる場合もあります。

ローターアクト

- ローターアクトとは、18～30歳の若者を対象としたプログラムで、大学または地域社会をベースとするクラブがあります。ローターアクトクラブの会員（ローターアクター）は、地元でボランティア活動を実施したり、リーダーシップのスキルや就職に役立つ知識を学びながら、楽しく活動しています。
- ローターアクトクラブは、「ロータリークラブ」がスポンサーとなって設立されますが、クラブの運営や活動資金の調達は、ローターアクト会員が独自に行っています。地元のロータリークラブと合同で活動する機会もあり、ローターアクトを「卒業」した後はロータリークラブに入会する人も大勢います。

RYLA

（ロータリー青少年指導者養成プログラム）

- RYLAは、ロータリー主催で行われる、若者のためのリーダーシップ育成プログラムです。参加者の年齢制限はありませんが、主に高校生、大学生、若い社会人を対象としています。
- RYLAは通常、3～10日の期間で開催され、以下のようなトピックを扱ったプレゼンテーション、活動、ワークショップなどが行われます。
 - リーダーシップの基本と倫理
 - コミュニケーション能力
 - 問題解決
 - 地域市民・グローバル市民としてのあり方

青少年交換のはじまり

- 青少年交換は、1920年代、ヨーロッパの少数のクラブの間で始まりました。ヨーロッパでのこれらの交換は、第二次世界大戦まで続けられ、その後1946年に再開されました。
- 1950年代には、この相互交換型で長期的かつ学問的な交換は人気を博し、ロータリー青少年交換の原型へと発展していきました。
- 1972年、国際ロータリーの理事会は、価値ある国際的な活動として、世界中のクラブに青少年交換を推奨することに同意しました。
- 今日、毎年8,000人以上の青少年交換学生が海外に渡り、およそ80カ国で生活し勉学に励んでいます。

次週のプログラム :

9月9日 「平均寿命を考える」

夏川 周介氏

次々週のプログラム:

9月16日 「飯綱山公園草刈」